

2025 年 3 月 24 日

報道関係者各位

大成株式会社

大成の「早生桐プロジェクト」でサステナブルな未来を創る — 三井住友銀行と共に SDGs 推進へ



2021 年に「私たちの SDGs 宣言」を掲げ、サステナビリティ経営へ本格移行した大成株式会社。その取り組みの象徴として進めるのが「早生桐プロジェクト」です。2026 年までに 4ha、2,400 本の植林を目標に掲げ、2022 年 5 月に三重県いなべ市でスタートしました。

2024 年 11 月には、三井住友銀行（SMBC）との共同で育成作業を実施。環境負荷を抑えた循環型経済（サーキュラーエコノミー）の実現を目指します。

◆「早生桐プロジェクト」とは？

本プロジェクトは、CO2 吸収量が一般的な木の約 10 倍とされる「早生桐（そうせいぎり）」を植林し、成木後は加工して家具に活用。その後、再生可能エネルギーとして循環させるという画期的な取り組みです。2022 年にスタートし、現在までに約 675 本が順調に成長し、一部は 10m 近くに達しています。しかし、獣害や持続可能な育成モデルの確立といった課題もあり、より環境に配慮した植林方法を模索しながら推進を続けています。

News Letter

◆SMBC とのパートナーシップ – 共同作業植林の背景

三井住友銀行は、「社会的価値創造」を経営の柱の一つとし、持続可能な社会の実現を目指す「シャカカチ DAY（社会的価値創造の日）」を推進。名古屋拠点では、大成のオフィス家具シリーズ「furniTure」の導入を契機に、当社の取り組みに関心を持つようになりました。

「持続可能な社会の実現に向けた具体的なアクションを体験し、新たな学びを得たい」との思いから、今回の共同育成作業が実現しました。

◆「木を育てる」ことのリアル – 参加者の気づき

当日は、三井住友銀行から 10 名、大成から 7 名の計 17 名が参加。肥料散布や枝打ちなど、成長に不可欠な作業を共に行いました。

参加者からは、「想像以上に大変だった」「木を育てることがこれほどの労力を要するとは」といった声が多数寄せられました。日頃、オフィスワーク中心の社員にとって、環境保全の現場を肌で感じる貴重な機会となり、「資源をもっと大切にしたい」という意識の変化が生まれました。

また、大成社員にとっても、「会社の取り組み」が「自分ごと」として捉えられるようになり、他企業の SDGs 活動への関心も高まりました。



◆持続可能な未来へー今後の展望

大成株式会社は、2026 年までに 2,400 本の植樹達成を目指し、今後もこのプロジェクトを推進していきます。加えて、オフィス家具以外にも、バイオマス燃料など新たな活用方法を模索し、より実効性のあるサーキュラーエコノミーの実現に取り組んでいきます。三井住友銀行の名古屋拠点では、「今回の経験を社内で共有し、より多くの社員が社会課題解決に向けた行動を起こせる文化を醸成したい」との声が上がっています。

当社は、今後も企業間パートナーシップを拡大し、SDGs の実現に向けた新たな可能性を切り拓いてまいります。

より詳しい情報はコチラ

[大成株式会社 SDGs サイト「ACTION TAISEI SDGs！」](#)

【大成株式会社 概要】

所在地 : 名古屋市中区栄 3-31-12

設立 : 1959 年

代表 : 加藤 憲博

URL : <https://www.aisei-bm.co.jp/>

事業内容 : ビルメンテナンス業、警備業、駐車場の管理、建築・土木工事全般に関する請負、労働者派遣事業、太陽光発電事業、建物・公共施設等の運営管理に関する請負ならびにコンサルティング



【本件に関するお問い合わせ先】

会社名：大成株式会社 担当窓口：企画部 広報課 内山

TEL：03-5214-1777（広報担当） お問い合わせフォーム：<https://www.aisei-bm.co.jp/contact/>